

第 98 回定時株主総会招集ご通知に際しての
インターネット開示事項

連結注記表…………… 1 ページ
個別注記表…………… 8 ページ

「連結注記表」及び「個別注記表」につきましては、法令及び定款第 15 条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト(<https://www.kyokuyo.co.jp>)に掲載することにより株主の皆様提供しております。

株式会社 極 洋

連結注記表

【連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等】

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 25 社

主要な連結子会社の名称

キョクヨー秋津冷蔵(株)、極洋商事(株)、極洋食品(株)、極洋水産(株)、キョクヨー総合サービス(株)、キョクヨーフーズ(株)、キョクヨーマリンファーム(株)、(株)ジョッキ、キョクヨーマリン愛媛(株)、極洋フレッシュ(株)、海洋フーズ(株)、極洋フィードワンマリン(株)、インテグレート・システム(株)、指宿食品(株)、(株)エイパックス・キョクヨー、(株)クロシオ水産

Kyokuyo America Corporation、K&U Enterprise Co.,Ltd.、青島極洋貿易有限公司、Kyokuyo Europe B.V.、Kyokuyo(Thailand)Co.,Ltd.、KYOKUYO GLOBAL SEAFOODS Co.,Ltd.他 3 社

なお、サポートフーズ(株)は当連結会計年度において清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数 2 社

持分法を適用した主要な関連会社の名称

(株)イチヤママル長谷川水産他 1 社

なお、(株)STIフードホールディングスについては、株式を一部売却したことにより持分法適用の範囲から除外しております。

(2) 持分法を適用していない関連会社の名称等

KAPPA CREATE KOREA Co.,Ltd.

持分法を適用していない関連会社に対する投資については、連結純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法の適用の手続きについて特に記載すべき事項

決算日が連結決算日と異なる会社について、当該会社の事業年度に係る計算書類を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、Kyokuyo America Corporation、K&U Enterprise Co.,Ltd.、青島極洋貿易有限公司、Kyokuyo Europe B.V.、Kyokuyo(Thailand)Co.,Ltd.、KYOKUYO GLOBAL SEAFOODS Co.,Ltd.他 1 社の決算日は 12 月末日であります。連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の計算書類を使用し、連結決算日までに生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券	時価のあるもの	連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）
	時価のないもの	移動平均法による原価法

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

主として総平均法による原価法

なお、収益性の低下したたな卸資産については、帳簿価額を切下げております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

主として定額法によっております。

(リース資産を除く)

② 無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(リース資産を除く)

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支出に備えるため、当社及び国内連結子会社は、支給見込額に基づき計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員の賞与の支出に備えるため、当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

④ 特別修繕引当金

船舶の特別修繕に要する費用の支出に備えるため、将来の修繕見積額に基づき計上しております。

⑤ 訴訟損失引当金

訴訟に対する損失に備えるため、損失見込額に基づき計上しております。

⑥ 役員株式給付引当金

取締役株式給付規程に基づく当社の取締役（社外取締役を除く）への当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。過去勤務費用は、その発生時に処理しております。

③ 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 重要なヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約取引については振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップ取引については特例処理によっております。

② のれんの償却に関する事項

のれんは、5年の定額法により償却しております。

③ 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

5. 表示方法の変更

連結貸借対照表

未払金の表示方法は、従来、連結貸借対照表上、その他(前連結会計年度5,843百万円)に含めて表示しておりましたが、重要性が増したため、当連結会計年度より、未払金(当連結会計年度6,323百万円)として表示しております。

6. 追加情報

(1) 取締役に対する業績連動型株式報酬制度

当社は、取締役(社外取締役を除く)を対象に、中長期的視野をもって、業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めることを目的として、業績連動型株式報酬制度(以下、「本制度」という。)を導入しております。

① 取引の概要

本制度は、当社が信託に対して金銭を拠出し、当該信託が当該金銭を原資として当社株式を取得し、当該信託を通じて取締役に対して、当社が定める役員報酬に係る取締役株式給付規程に従って、業績達成度、業績貢献度に応じて当社株式を給付する業績連動型の株式報酬制度です。なお、取締役が当社株式の給付を受ける時期は、原則として取締役の退任時となります。

② 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度末の当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、149百万円及び51,452株であります。

(2) 会計上の見積り

当社グループは、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響を受けており、今後、徐々に回復に転じるものと仮定して有形固定資産の評価、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。なお、新型コロナウイルス感染症の広がりや収束時期等の見積りには不確実性を伴うため、実際の結果はこれらの仮定と異なる場合があります。

【連結貸借対照表関係注記】

1. 担保資産及び担保付債務

(1) 担保に供している資産

建物及び構築物	2	百万円
機械装置及び運搬具	26	〃
計	29	〃

(2) 担保設定の原因となる債務

短期借入金	18	百万円
長期借入金	113	〃
計	132	〃

2. 有形固定資産減価償却累計額 23,449 百万円

3. 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

圧縮記帳額	1,933	百万円
(うち、建物及び構築物)	1,193	〃
(うち、機械装置及び運搬具)	722	〃
(うち、船舶)	5	〃
(うち、その他)	12	〃

4. 保証債務及び手形遡及債務等

手形遡及債務

輸出信用状付荷為替手形銀行間未決済残高	32	百万円
---------------------	----	-----

【連結損益計算書関係注記】

当社グループは主として以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

(単位：百万円)

場所	用途	種類	減損損失
K&U Enterprise Co.,Ltd. (Samut Sakhon,Thailand)	冷凍食品事業用資産	建物及び構築物	242
		機械装置及び運搬具	44
		土地	216
		有形リース資産	3
		その他	10

上記資産グループについては、資産グループの回収可能価額を著しく低下させる経営環境の変化が生ずる見込みとなったことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 516 百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

【連結株主資本等変動計算書関係注記】

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式数 普通株式	10,928,283	—	—	10,928,283

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月24日 定時株主総会	普通株式	754	70	2020年3月31日	2020年6月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2021年6月25日開催の定時株主総会において、次の議案を付議いたします。

株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当金の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
普通株式	864	利益剰余金	80	2021年3月31日	2021年6月28日

【金融商品関係注記】

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用について短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。借入金金の用途は運転資金及び設備資金であります。なお、デリバティブは、社内管理規程に従い、実需の範囲で行うこととしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日（当連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

（（注2）を参照ください。）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額（※1）	時価（※1）	差額
(1)現金及び預金	7,100	7,100	—
(2)受取手形及び売掛金	32,869	32,869	—
(3)投資有価証券			
その他有価証券	11,340	11,340	—
(4)支払手形及び買掛金	(8,941)	(8,941)	—
(5)短期借入金	(5,922)	(5,922)	—
(6)コマーシャル・ペーパー	(10,000)	(10,000)	—
(7)長期借入金	(34,854)	(34,753)	(101)
(8)デリバティブ取引(※2)	214	214	—

（※1）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（※2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

（注1）金融商品の時価算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

（1）現金及び預金、並びに（2）受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

（3）投資有価証券

これらの時価について、株式取引所の価格によっております。

（4）支払手形及び買掛金、（5）短期借入金、並びに（6）コマーシャル・ペーパー

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

なお、短期借入金のうち一年内返済長期借入金 2,134 百万円は、長期借入金に含めております。

（7）長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

（8）デリバティブ取引

時価については、取引先金融機関から提示された価格によっております。

為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金及び買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金及び買掛金の時価に含めて記載しております。

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	341

上記については、市場価格がなく、且つ将来キャッシュ・フローを見積もること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

【1 株当たり情報関係注記】

- 1 株当たり純資産額 3,753 円 90 銭
- 2 1 株当たり当期純利益 356 円 95 銭

【その他の注記】

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

子会社株式及び 関連会社株式	移動平均法による原価法	
その他有価証券	時価のあるもの	決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）
	時価のないもの	移動平均法による原価法

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

総平均法による原価法

なお、収益性の低下したたな卸資産については帳簿価額を切下げております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

定額法によっております。

（リース資産を除く）

② 無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

（リース資産を除く）

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりであります。

a. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

b. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。過去勤務費用は、その発生時に処理しております。

- ④ 役員株式給付引当金 取締役株式給付規程に基づく当社の取締役（社外取締役を除く）への当社株式の給付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約取引については振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップ取引については特例処理によっております。

② 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

③ 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 追加情報

(1) 取締役に対する業績連動型株式報酬制度

取締役に対する業績連動型の株式報酬制度の導入に関する注記については、連結注記表「6.追加情報」に記載しているため、省略しております。

(2) 会計上の見積り

当社は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響を受けており、今後、徐々に回復に転じるものと仮定して有形固定資産の評価、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。なお、新型コロナウイルス感染症の広がりや収束時期等の見積りには不確実性を伴うため、実際の結果はこれらの仮定と異なる場合があります。

3. 貸借対照表に関する事項

(1) 有形固定資産減価償却累計額 6,716 百万円

(2) 圧縮記帳額

国庫補助金により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

圧縮記帳額	1,375 百万円
(うち、建物)	920 "
(うち、構築物)	8 "
(うち、機械装置)	443 "
(うち、工具、器具及び備品)	2 "

(3) 保証債務及び手形遡及債務等

① 保証債務

下記の会社の金融機関からの借入金等に対して、次のとおり債務保証を行っております。

KYOKUYO GLOBAL SEAFOODS Co.,Ltd.	1,357	百万円
Kyokuyo America Corporation	1,072	〃
(株)ジョッキ	827	〃
その他	860	〃
計	4,117	〃

② 手形遡及債務

輸出信用状付荷為替手形銀行間未決済残高 32 百万円

(4) 関係会社に対する金銭債権債務

① 短期金銭債権	13,303	百万円
② 長期金銭債権	95	〃
③ 短期金銭債務	8,586	〃
④ 長期金銭債務	13	〃

4. 損益計算書に関する事項

(1) 関係会社に対する売上高	31,421	百万円
(2) 関係会社からの仕入高等	61,316	百万円
(3) 関係会社との営業取引以外の取引高	518	百万円

5. 株主資本等変動計算書に関する事項

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式 170,774 株

(注)当事業年度末日の自己株式数には、役員向け株式給付信託が所有する当社株式を含めております。

6. 税効果会計に関する事項

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

繰延税金資産の発生の主な原因は、退職給付引当金の否認、賞与引当金の否認等であり、繰延税金負債の発生の主な原因は、その他有価証券評価差額であります。

7. 関連当事者との取引に関する事項

子会社及び関連会社等

種類	名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (注1)	科目	期末残高
子会社	極洋食品株式会社	% 所有 直接90.0 間接10.0	当社は原料を販売し、 又当社は製品を仕入れ 役員の兼任	原料販売(注2) 製品仕入(注2)	百万円 10,102 14,778	売掛金 買掛金	百万円 2,232 1,580
子会社	極洋水産株式会社	所有 直接100.0	当社は原料を販売し、 又当社は製品を仕入れ 役員の兼任	資金の預り(注3)	—	預り金	3,162
子会社	キョクヨーマリン ファーム株式会社	所有 直接83.3 間接16.7	当社は製品を仕入れ 役員の兼任	資金の預入(注4)	—	預け金	1,237
子会社	株式会社ジョッキ	所有 直接100.0	当社及び子会社は原料を販売し、 又当社は製品を仕入れ 役員の兼任	資金の預入(注4)	—	預け金	2,127
子会社	極洋フィードワンマリン 株式会社	所有 直接40.0 間接10.0	当社は製品を仕入れ 役員の兼任	資金の貸付(注5) 資金の回収	105 50	短期貸付金 長期貸付金	1,150 75
子会社	Kyokuyo America Corporation	所有 直接100.0	当社及び子会社の製商品を販売し、 又当社は商品を仕入れ	債務保証(注6)	1,072	—	—
子会社	K&U Enterprise Co.,Ltd.	所有 直接50.0	当社は原料を販売し、 又当社は製品を仕入れ 役員の兼任	原料販売(注2)	2,060	売掛金	1,287
子会社	KYOKUYO GLOBAL SEAFOODS Co.,Ltd.	所有 直接100.0	当社は原料を販売し、 又当社は製品を仕入れ 役員の兼任	原料販売(注2) 債務保証(注6)	1,906 1,357	売掛金 —	1,349 —

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1)取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2)取引条件は、市場の実勢価格等を参考にして、その都度交渉の上決定しております。

(注3)資金の預りについては、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。なお、頻繁に発生する取引のため、取引金額の記載を省略しております。

(注4)資金の預入については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。なお、頻繁に発生する取引のため、取引金額の記載を省略しております。

(注5)資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

(注6)金融機関からの借入に対して債務保証を行ったものであります。なお、取引金額には債務保証の期末残高を記載しております。

8. 1株当たり情報に関する事項

(1) 1株当たり純資産額	2,930円79銭
(2) 1株当たり当期純利益	339円65銭

9. 連結配当規制適用会社

当社は、当事業年度の末日が最終事業年度の末日となる時後、連結配当規制適用会社となります。

10. その他の注記

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。